

H19 年度臨時事前調査検討専門部会／ SSP 国内連絡会 議事録

日時：2007 年 9 月 26 日（水）PM14：00～17：00

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者（敬称略）

専門部会長：芦 寿一郎（東京大学）

専門部会委員：荒井晃作（産業技術総合研究所）岡野 正（海洋研究開発機構）加藤幸弘（海上保安庁）

* ☆日野亮太（東北大学） * 三浦誠一（海洋研究開発機構）山本啓之（海洋研究開発機構）

* 兼 SSP 委員 ☆ IODP 部会執行部会担当

S S P 委員：金松敏也（海洋研究開発機構）白井正明（東京大学海洋研究所）田中明子（産業技術総合研究所）

事務局：加賀谷一茶

欠席者（敬称略）

専門部会委員：中西正男（千葉大学）小平秀一（海洋研究開発機構）辻 喜弘（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）

S S P 委員：松田博貴（熊本大学）矢口良一（三井石油開発株式会社）

議事次第

【審議事項】

1. SSP 議長候補の推薦
2. 今後の SSP の運営
3. IFREE による IODP 関連構造探査の進め方
4. その他

配布資料

資料 1-1 前回（#1_070710）議事録（案）

資料 1-2 SSP ローテーション（案）

資料 1-3 IFREE による IODP 関連構造探査の進め方（案）

議事録

前回議事録確認、修正がある場合はメールにて連絡をする。

1. SSP 議長候補の推薦

現在、SSP 副議長で次期議長候補でもある矢口委員から、任期途中だが次の 1 月の会議で退任したいとの意向が示されたので、後任候補を検討することとなった。

- ・次期候補は 2008 年の夏会議に副議長として出席し、次の 2009 年 1 月の会議から議長に就任予定。
- ・Sawyer 議長によると現委員か経験者が望ましいとのこと。
- ・難しいかもしれないが、後任は矢口委員と同じ石油関係企業の方がよいのではないかと。海外ではリタイヤした人が委員となることも多い。日本も見習ったほうがよいのでは。
- ・副議長、議長としてパネルを背負い、仕切り、舵取りをするには、無論 IODP を熟知している必要があり、かなりの力量が必要である。

後任候補には、過去の SSP 委員経験者に依頼することとなった。また、後任の委員には、2008 年 1 月の東京会議にオブザーバーとして参加していただくことを検討する。

2. 今後の SSP の運営

次回 SSP 会議は、2008 年 1 月 23～25 日に東京で開催することを確認した（会場は JAMSTEC 東京事務所）。会議のローカルホストである金松委員と J-DESC 事務局（AESTO）は、今後、Sawyer 議長および IODP-MI と開催に向けて調整を行う。巡検の実施予定は特にない。

引き続き SAS の委員削減について議論が行われ、米国側を中心とした意向により、現在 SSP も含めた SAS 委員の人数削減を日米中心にボランティアに行うことになった説明がなされた。米国側の委員削減スケジュールは、7 人（現在）→6 人（FY07 末）→5 人（FY08 末）を予定しており、FY09 年より 5 人体制となる予定。

- ・SAS 委員の削減は、SASEC の SAS WG にて検討されている SAS 改革の一環であり、9 月の SPC 会議でその報告がなされた。現在、SPC 以外のパネルにも報告が回っており、フィードバック待ちの状態である。
- ・フィードバック待ちの状態とのことだが、委員削減は先行して準備を行うということなのか。今度の 1 月の SSP でも議題となるであろう。

国内における SAS 委員のサポート体制について、執行部会、専門部会、事務局による体制の強化、および戦略的な委員の派遣を求める意見が出された。

- ・SAS 会議の場では、委員個人として対応できることと、組織（日本委員）として対応しないとけない事があり、組織として対応する場合のサポートが欲しい。
- ・国内において、国際パネル委員と J-DESC のつながりが気薄な部分がある。SAS 全体の状況を把握しており、SSP に求められていることを的確に理解している人が必要。
- ・若手のプロポーザル提案者が SAS 委員になってパネルの現場を理解してもらう事が重要でないか。裾野を広げるために人材の発掘が大切。
- ・専門家でなくてもよいが、サイトサーベイの技術を知っている人が SSP 委員になるべきではないか。
- ・事務局としても、一步踏み込んだ SAS サポートに取り組みたい。要望があれば遠慮なく挙げていただきたい。

3. IFREE による IODP 関連構造探査の進め方

JAMSTEC/IFREE の三浦氏より、資料 1-3 に基づき、再来年度以降の IFREE による IODP 関連構造探査の進め方について、IFREE の基本方針と調査計画作成までのプロセスの説明がなされた。

- ・ JAMSTEC 内での航海プロポーザルのプロセス上、現案のスケジュールをタイトにしないと平成 21 年度に間に合わない。事前調査部会は、アンケート等の準備を早めに始める必要がある。
- ・ JAMSTEC 所内公募（測線提案型）と IFREE 実施航海の両方の予算枠を活用したいが、それがダブルスタンダードにならないかが課題である。
- ・ 大陸棚調査の終了により測線提案型がなくなると、IFREE 実施航海以外の実施方法がなくなる。
- ・ 測線提案型が増えると、プロポーザルのランキング等で、審査時に J-DESC の協力が求められることが想定される。
- ・ これまでの測線提案型の応募では、少なくとも IODP にプレプロポーザルを出している必要がある。提出時には IODP に提出したプレプロポーザルのカバーシートをつける（プレプロポーザルを IODP に提出する段階ではサイスミックデータは必要ではない）。
- ・ プレプロポーザルを書くための事前調査の場合は、測線提案型が使えない。深海調査研究のシングルチャンネルの申請は出せる。
- ・ J-DESC によるプロポーザル作成支援と関連させてバックアップできないものか。
- ・ 個別に測線提案型へ応募してもらうのではなく、J-DESC によって調整・推薦された応募が望ましい（SAS でのコメントを添える等）。測線提案型、IFREE 枠どちらに応募するか、シングルかマルチチャンネルかも考慮する。
- ・ 過去に提出され、現在 Dead プロポーザルとなっているものを復活させる事が可能かもしれない。古環境の研究者はサイスミックデータの取得方法がわからなく、諦めたプロポーザルもある。

J-DESC は、アンケートによる事前調査のニーズ確認を早急に行い、また、JAMSTEC に協力要請の要望書を提出し、早めにアピールしていくことを検討する（12月の深海調査臨時委員会までに）。

4. その他

SPC 会議報告

9月に開催された SPC 会議について、山本 SPC 委員から報告がなされた。

- ・ SODV の改装遅れに伴う運航計画の大幅な変更があった。IODP 復帰は 2008 年 5 月を予定。SODV は、改装後も JR 号を名乗る。
- ・ JR 号・ちきゅうは、年 7 ヶ月間を IODP で運行する。ただし NonIODP 航海も 7 ヶ月に含まれる。MSP は 2 年に 1 回の航海を予定。
- ・ 提出されていたミッションプロポーザルは、いずれも採択されなかった。関東アスペリティ (707-Full2) は CDP として認められた。
- ・ 外部資金を導入した掘削計画を受け入れるため、新たな規定にもとづく掘削提案の様式 CPP (Complementary Project Proposals) が新設された。企業や IODP 非加盟の機関からの掘削提案を受理できることになる。受理された提案は SAS において審議される。

次回開催予定について

次回の部会は、1月の SSP 後での開催を検討する。